



第2部

基本計画



田舎地図と田舎暮らしの本

朝日

2 安全な村土づくり

田舎地図

「離れる夫婦」

第1章

快適な生活の環境づくり

第5節 ● 地域情報化の推進

第4節 ● 公共交通機関の確保と充実

第3節 ● 住民生活の安全確保

第2節 ● 生活環境の整備

第1節 ● 村土の保全と適切な土地利用

第1節 村土の保全と適切な土地利用

1 土地利用計画

[現状と課題]

本村は、総面積の80%が山林であり、天竜川沿岸地帯及び河岸段丘上に平坦地があるほかは起伏の多い山間の傾斜地です。

このため、村政発展のためには少ない平坦地と広大な森林の有効利用が不可欠であり、計画的な合理的な土地利用が課題となります。土地利用

利用区分ごとの村土利用の推移

利用区分	年	55	60	62	63	元	2
農用地		793	785	763	763	758	747
農地		782	774	752	752	747	737
採草放牧地		11	11	11	11	11	10
森林	6, 127	6, 127	6, 155	6, 155	6, 135	6, 135	
原野	14	14	14	14	14	15	
水面・河川・水路	144	144	144	144	144	144	
道路	203	212	161	161	162	167	
宅地	112	117	119	120	121	126	
住宅地	91	91	91	92	93	94	
工業団地	7	7	9	9	9	11	
その他の宅地	14	19	19	19	19	21	
その他	236	230	273	272	351	351	
合計	7, 629	7, 629	7, 629	7, 629	7, 685	7, 685	

(単位:ha)

にあたっては安全性、生産性、快適性、健康性などの観点から、質的な向上を図る必要があります。土地は単なる資産的な保有の対象としてではなく利用の対象としてとらえ、主たる機能を逸脱しない範囲において、より多面的な利用を図ることが重要です。

[施策の展開]

1 農業振興地域

●農産物等の生産性向上と農業経営安定化のため適正規模の農地の確保と集団化により効率的利用を図ります。

2 住宅地域

●世帯数の増加やゆとりある住宅環境を求める動向に対応し、必要な用地確保を図ります。

3 工業地域

●村の調和ある発展と良好な生活環境を形成するため、工業団地化を促進し、優良企業誘致のための用地確保を積極的に進めます。また、用地の選定にあたっては、地域社会との調和に配慮し、自然的土地利用との調整を十分に行います。

4 商業地域

●役場庁舎を中心として、風格あるまちづくりのため既存商店の育成を図りつつ、活気ある商店街の再編成のための整備を図ります。

5 自然景観地域

●村内の河川は豊かな清流と、美しい渓谷を形成しており、この資源を保全し適正活用を図ります。

6 森林地域

●木材や茸の生産等経済的機能と村土の保全、水源かん養等公益的機能を総合的に発揮できるよう、必要な森林の確保と整備を図ります。

[村民の協力と役割]

1 村民の福祉の向上と村の発展のためには合理的な土地利用が必要なことを理解し協力しましょう。

2 安全な村土づくり

[現状と課題]

1 村土の約8割を占める森林は、土砂の流出、土壤の浸食等の山地災害を防止する重要な役割を担っていますが、その地形は急峻であり、山間地においては数多くの崩壊地が見られ、土石流や急傾斜地の崩壊による災害の発生が懸念される状況にあり、健全な森林づくりや適切な治山対策を講じる必要があります。

2 村内の一級河川は下流において天井川となっている河川が多く、住民が安心して快適な生活を営むためには天井川の解消の要望が出されて

2 自ら地域づくりに参加するとともに、住みよい村づくりに協力しましょう。

います。

また、天竜川においても重要水防箇所が数多くあり、これらの解消も重要な課題となっています。

3 中段地帯のは場整備と道路改良の進展等により、大雨の際の排水は一時的に下段地帯の河川的排水路に流入し、水害が発生しています。

4 急峻な地形で災害の発生の多い本村においては、河川上流へダムを建設して下流の村土保全と住民生活の安定を図る必要があります。

重要水防区域一覧表

水防管理団体名	河川名	河川管理者名	河川の種別	左右岸の別	警戒の度合	延長(m)(か所)	場所(目標)	予想される水位(m)	区分と予想される危険	水防工法
	天竜川	建	一級	左	A	190(1)	河野	2.1	護岸老朽	木流し蛇籠布せ
	"	"	"	"	A	130(1)	"	2.1	根固洗堀	"
	"	"	"	"	A	50(1)	柿外土	2.1	"	"
	"	"	"	"	A	150(1)	伴野	2.1	根固老朽	"
	"	"	"	"	B	140(1)	"	2.1	"	蛇籠布せ
	"	"	"	"	B	500(1)	河野	2.1	"	"
	"	"	"	"	C	(120) 1,070(1)	田村	2.1	堤防余裕高不足	積土俵
	"	"	"	"	C	(200) 1,300(1)	河野	2.1	"	"
	漆沢川	県	"	"	A	40(1)	南市場	1.5	護岸等の欠壊	木流し蛇籠布せ
	"	"	"	右	A	48(1)	"	1.5	"	"
	地蔵ヶ沢川	"	"	左	A	300(1)	小園	1.5	"	"
	"	"	"	右	A	380(1)	"	1.5	"	"
	壬生沢川	"	"	左	A	30(1)	南入	1.5	"	"
	"	"	"	右	A	140(1)	"	1.5	"	"
	芦部川	"	"	左	A	200(1)	金山	1.5	"	"
	"	"	"	右	A	80(1)	"	1.5	"	"
	寺沢川	"	"	"	A	30(1)	井桁	1.5	"	"
	"	"	"	"	A	40(1)	下田	1.5	"	"
	"	"	"	左	A	50(1)	駒沢	1.5	"	"
	長沢川	"	"	"	A	120(1)	アリヅカ	1.5	"	"
	"	"	"	右	A	50(1)	"	1.5	"	"
	間沢川	"	"	左	A	50(1)	獅子田	1.5	"	"
	本村川	"	"	右	B	50(1)	赤畑	1.5	"	"
	"	"	"	"	B	10(1)	石休	1.5	"	"
	計					4,828(24)				

[施策の展開]

1 森林の保全

(1) 保安林の整備

- 保安林の適正な配備を計画的に進めるとともに、土地利用の適正化に努めます。

(2) 治山対策

- 治山事業を計画的に進め、山地災害危険地区を総合的に整備し村土の保全機能の向上を図ります。

2 治水対策の推進

(1) 河川の改修

- 天竜川の重要水防箇所の解消と村内の一級河川の天井川の改修を促進します。

- 準用河川等の整備を促進します。

(2) 河川的排水路の整備

- 災害危険箇所については河川的排水路として認定して整備を図ります。

(3) 砂防ダム・小規模生活ダムの建設

- 災害を未然に防止し、下流住民の生活の安全を確保するため、芦部川青木砂防ダムの早期完成を促進します。

- 虻川上流砂防ダムの建設を促進します。

- 水資源確保、下流の災害防止等を目的として、郷士沢への小規模生活ダムの建設を促進します。

3 土砂災害対策の推進

(1) 土石流対策

- 土石流発生の危険性が高い渓流を中心に砂防堰堤の建設を推進します。

- 土石流危険河川の表示をはじめ、総合的な土砂災害対策を推進します。

(2) 急傾斜地崩壊防止対策

- がけ崩れなどで人家等に危険を及ぼす箇所を点検し、防災工事を進めます。

4 水防対策

- 水防資材の確保に努めます。

- 情報収集、迅速な伝達および応急体制の整備を図ります。

5 災害復旧対策

- 被害箇所の早期復旧を図ります。

[村民の協力と役割]

1 森林づくりへの理解を深め、森林の健全化に協力しましょう。

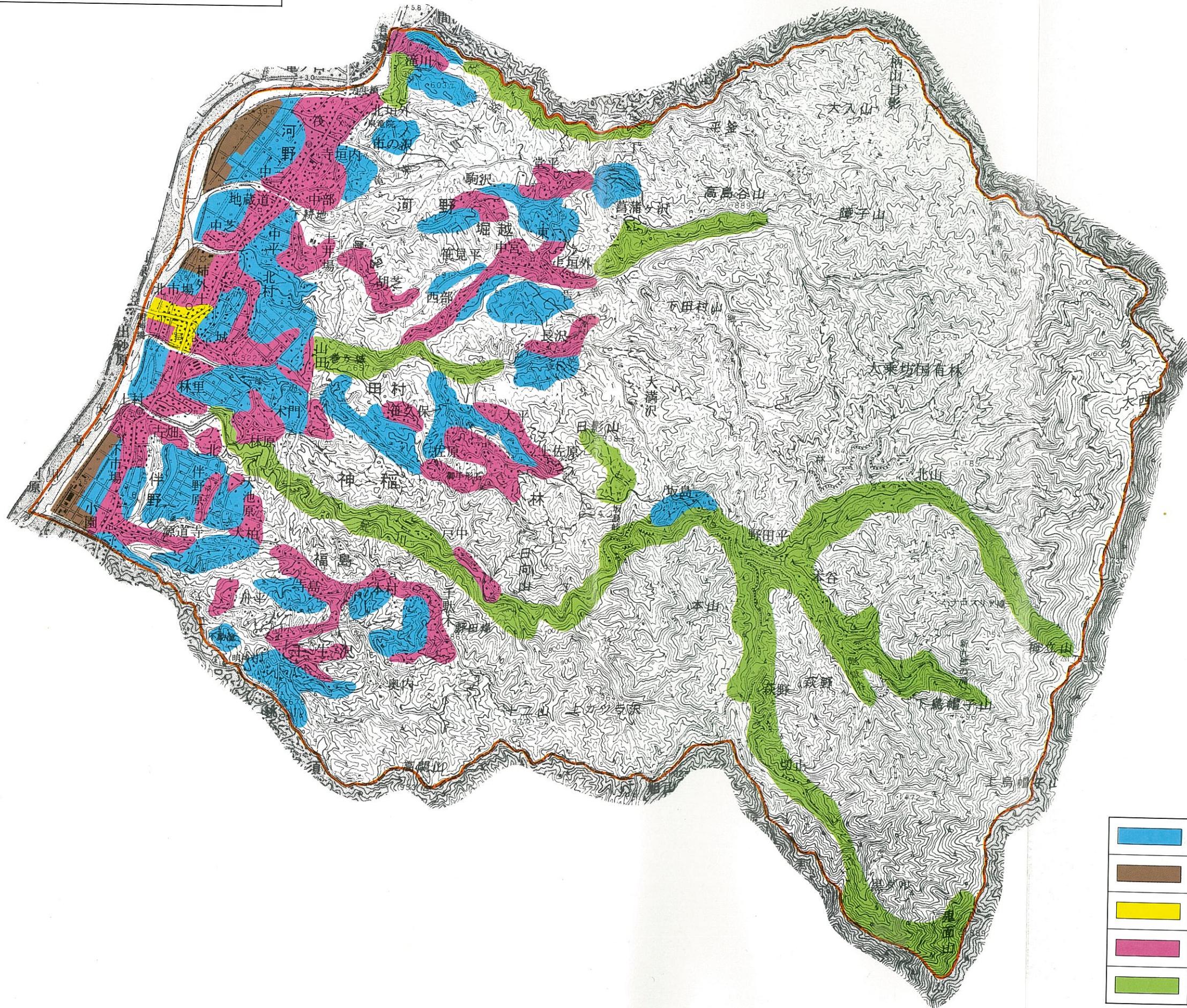
2 河川清掃等身近な環境の保全と河川愛護に協力しましょう。

3 用排水路の適正な維持管理に協力しましょう。



天竜川護岸工事

土地利用計画図



[Blue Box]	農業用地域
[Brown Box]	工業用地域
[Yellow Box]	商業用地域
[Pink Box]	住宅地域
[Green Box]	自然景観地域

第2節 生活環境の整備

1 道路交通網の整備

[現状と課題]

1 村内の幹線道路

本村の幹線道路は、下段地帯を南北に縦断する主要地方道伊那生田飯田線と、伊那南部広域農道に対し、明神橋を経由して村中心部と高森町を結ぶ市田停車場線、万年橋を経由して河野と高森町を結ぶ市の沢山吹停車場線、松川町と結ぶ台城橋、田村と長沢を結ぶ長沢田村線のほか、下段と山間地を結ぶ幹線村道があります。また、下段中央部を縦断するする竜東一貫道路の開設に63年から着手しています。しかし、伊那生田飯田線は大型車の交通量に比較して幅員が狭く擦れ違いに困難をきたしており、バイパス道路として竜東一貫道路の早期完成と、完成後の県道への昇格や伊那生田飯田線の国道への昇格が望まれています。また、長沢田村線は未改良部分が多く、明神橋についても老朽化に加えて幅員の狭さと高さ制限があり、早急な改良と架け替えが課題となっています。

幹線村道は概ね改良されたものの、長沢線の

改良は住宅密集地の拡幅工事となり多大な経費が必要となります。また、竜東一貫道路の開設も村発展の観点から大きな期待がかけられており、早期全線完成が望まれています。

2 生活関連道路

山間地を多く抱える本村にとっては、村の中心地と山間地を結ぶ幹線道路を中心に改良を進めてきました。概ねこれらが完成したため今後は地域住民の身近にある道路の整備を行う必要があります。

3 広域的的道路

三遠南信自動車道は、飯田市と静岡県三ヶ日町を結ぶ自動車専用道路であり、矢筈トンネルが貫通し、喬木インターチェンジの工事も着々と進められています。このため、中央自動車道松川インターチェンジとを結ぶアクセス道路整備の促進や竜東一貫道路及び伊那南部広域農道の早期整備促進を図る必要があります。

村が管理する道路の状況

種別	延長	種類	延長・面積
1級	38, 675m	橋梁面積	5, 931m ²
2級	24, 356m	橋梁延長	1, 451m ²
その他	292, 921m	うち永久橋	1, 323m ²
計	355, 952m	うち非永久橋	128m ²

幅員	上段面積・下段延長
6. 5m以上	137, 113m ²
	17, 554m
4. 5m以上～6. 5m未満	259, 556m ²
	49, 106m
2. 5m以上～4. 5m未満	576, 863m ²
	171, 123m
1. 5m以上～2. 5m未満	126, 767m ²
	65, 176m
計	1, 100, 299m ²
	302, 959m

農林道延長

農林道	道道	5路線	972m
林	道	11路線	35, 232m

[施策の展開]

- 1 龍東一貫道路の開設
 - 各種制度を活用し、早期全線開通に向けて努力します。
- 2 県道改良等の促進
 - 長沢田村線の改良を促進します。
 - 伊那南部広域農道の早期全線開通を推進します。
 - 既設道路の国道、県道への昇格運動を展開します。
- 3 天竜川への架橋の促進
 - 明神橋の早期架替え完成を推進します。
 - 河野から国道153号線への架橋を促進します。
 - 台城橋の架替えを促進します。
 - 伴野工場団地から高森工業団地の架橋を研究します。
- 4 幹線村道の整備
 - 継続事業を優先し整備を進めます。
- 5 生活関連道路の整備
 - 住民要望や緊急度等を勘案し整備を進めます。
- 6 農林道の整備
 - 補助事業により計画的に整備します。
 - 継続事業を優先し整備を進めます。
- 7 広域的道路の整備促進
 - 三遠南信自動車道の早期完成を促進します。
 - 三遠南信自動車道のアクセス道路の整備を促進します。
 - 国道153号線と256号線を結ぶ村内通過道路の研究を行います。

年度別配水量と給水人口の推移

年次	給水人口	給水戸数	年間配水量	1日1人平均給水量	1日最大配水量	1日平均配水量	普及率
40年	3,603人	797戸	137,550m³	75ℓ	m³	377m³	44.0%
55年	6,747	1,619	574,860	127	1,593	1,575	91.3
60年	7,093	1,705	495,250	152	1,910	1,357	96.3
2年	7,137	1,737	633,799	173	1,827	1,736	96.7
3年	7,157	1,754	609,218	179	1,901	1,669	97.4

[村民の協力と役割]

- 1 道路は最も公共性の高いことを理解し、改良工事等に協力しましょう。
- 2 道路の清掃、除雪、路肩の草刈りなどの管理作業に協力しましょう。
- 3 道路愛護精神の高揚を図りましょう。

2 水道施設の整備

[現状と課題]

村営水道は、下水道事業の実施にともない、水需要の増加と、文化的生活環境の享受のために水の安定的供給が求められる時代となっています。

水道施設については、計画的に改修整備を行ってきましたが、今後効率的な管理を行ううえでは下水道事業に併せて整備をしていく必要があります。

水源については、深井戸水源だけに依存しており、量的確保のためには配水池の増設での対応が求められます。

[施策の展開]

- 1 下水道事業、合併処理浄化槽設置にあわせて配水池の増設及び計装施設の整備を図ります。
- 2 新たな水源として郷土沢地籍に建設される小規模生活ダムからの取水を計画します。
- 3 水道水の安定的供給、緊急時の早期対応により有効率の向上を図ります。

[村民の協力と役割]

- 1 資源である水の大切さを認識し、村営水道に対する理解を深めましょう。
- 2 浪費的使用をやめ、宅内施設の保全管理に努めましょう。

3 下水道施設の整備

[現状と課題]

1 昭和63年に樹立した下水道計画を柱に平成元年度から着手、平成14年度の全村水洗化、雑廃水処理に向けて積極的な取組みを行っています。

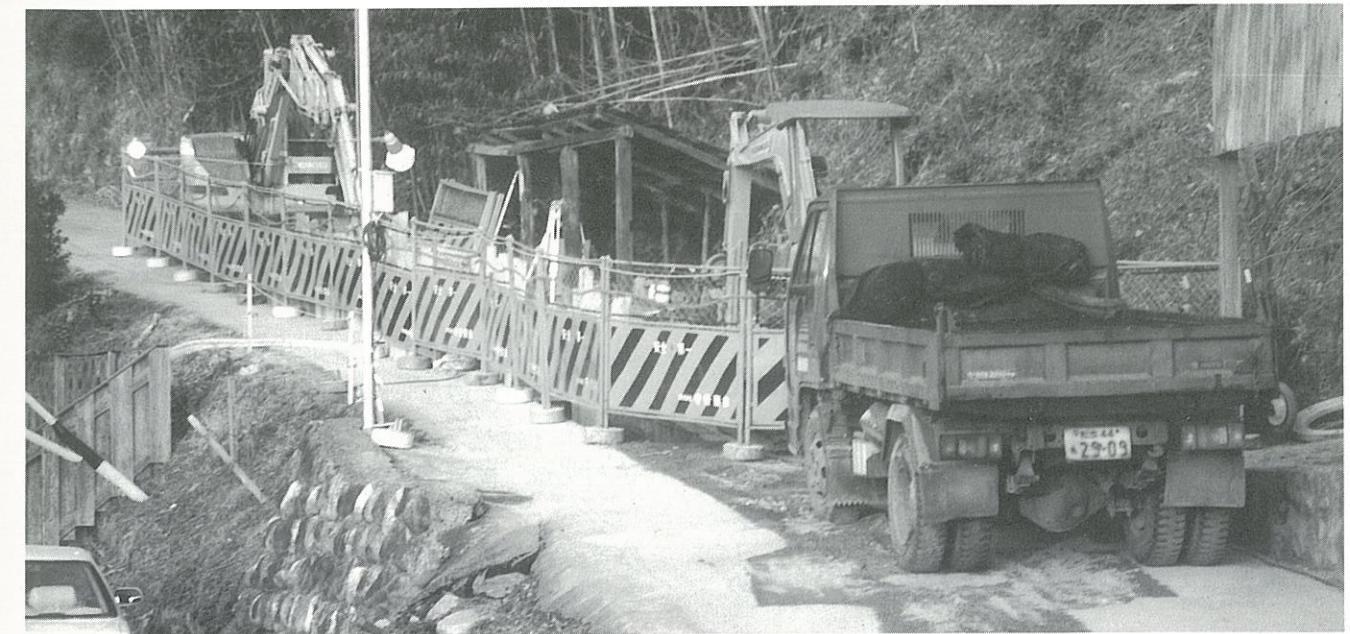
2 長野県の下水道普及率は平成3年3月現在、31.9%となっていますが、快適な生活と豊丘村の水を守るために、下水道整備の要望の声は年々高まりを見せており早期完了が望まれています。

[施策の展開]

- 1 農業集落排水事業の実施
 - 平成4年度に完成した伴野地区については平成5年4月より本格稼働し、早期の全戸加入を促進します。

下水道整備計画

事業名	地区名	排水面積	計画処理人口	事業施行(予定)期間	区域
農業集落排水事業	伴野地区	20ha	1,300人	H元～H4	伴野・小園
〃	河野地区	21	1,370	H4～H8	河野北部・中部
特定環境保全公共下水道事業	豊丘地区	128	3,500	H4～H14	河野南部・田村・林
合併処理浄化槽	中山間地区	—	1,667	H元～H10	中山間地



下水道事業（管布設工事）

4 一般廃棄物対策

[現状と課題]

近年、生活様式の都市化にともない家庭から排出される様々なゴミ、生活排水、し尿等が年々増加しています。これらを計画的かつ効率的に処理し快適で住みよい居住環境の保全に努めなければなりません。

1 ゴミ処理

- 「自分が排出する廃棄物は自分で処理する」を原則に、各人が自覚と責任を持つことが大切なことから、昭和54年から収集袋を統一化し環境保全連絡員による検査を徹底して分別収集に努めています。

- ゴミの再資源化については、婦人会、小中学校を中心に積極的に取組み、不法投棄防止や空き缶散乱防止運動についても村内全域において住民参加によるゴミゼロ運動を母体に積極的な啓発活動を推進してきました。

- 年々増加するゴミを考慮すると最終処分場の新設計画の準備が必要になります。また、ゴミ処理対策として、粗大ゴミ等収集処分の有料化も検討課題とします。

2 し尿と雑廃水処理

- 昭和55年より三槽簡易沈殿槽の普及に努めてきましたが、快適な生活環境整備のため昭和63年に下水道整備構想を樹立し、下水道整備と合併処理浄化槽の普及と整備を進めています。

[施策の展開]

1 ゴミ処理

(1)焼却ゴミ

- 農村地域の特性を生かし、生ゴミは各自で堆肥化、焼却ゴミは焼却し搬出ゴミの減量化を推進します。

- 焼却後の灰は埋め立てゴミとして収集処分を行います。

(2)埋め立てゴミ

- ガラス類等の危険物は分別収集を行い埋め

立て処分します。

- 粗大ゴミ等の再利用を促進します。

(3)資源ゴミ

- 古紙等の資源ゴミは廃品回収し再利用を促進します。

2 し尿および雑廃水処理

- 下水道、合併処理浄化槽設置整備を推進します。

- 河川の水質検査を定期的に実施し河川の浄化に努めます。

3 不法投棄の防止

- 不法投棄防止に対する啓発活動を住民と一体となって推進します。

4 最終処分場の建設

- 年々増加するゴミの量を考慮し最終処分場の新設計画の準備を行います。また、広域的な粗大ゴミ処理場建設も今後の研究課題とします。

[村民の協力と役割]

- 1 自分で出したゴミは自分で片付ける習慣を身につけましょう。

- 2 ゴミの再資源化を推進し、ゴミの減量に努めましょう。

- 3 ゴミや空きカンの投げ捨て、不法投棄は絶対に行わないようにしましょう。

- 4 地域の環境に关心を持ち、ゴミ問題について学習を深めましょう。

5 産業廃棄物処理対策

[現状と課題]

1 社会経済の伸展にともない、建築廃材等の産業廃棄物は増加の一途をたどっており、関係企業はその処理に苦慮しています。

村内には、村が設置し委託運営している処理場1箇所のほかに民間で設置した処理場が3箇所あり埋立処理が行われています。

2 処理場建設にあたっては、村の環境保全と地域住民の生活環境に十分配慮し、安全で適正規模でなくてはなりません。

[施策の展開]

1 環境保全や村のイメージを大切にする見地から、処理場の建設、受入れにあたっては慎重を期しますが、村内企業の健全育成を図るため、村内の産業廃棄物の処理については適正に処理できるよう配慮します。

2 産業廃棄物の処理については、県との連携を図り適正な処理管理を指導します。

[村民の協力と役割]

- 1 村内の産業廃棄物は村内で処理することに理解を深めましょう。

- 2 建築廃材等の廃棄物の減量化を推進しましょう。

- 3 処理場建設にあたっては、地域の課題として取組みましょう。

6 公園の整備

[現状と課題]

平成2年度から4年度にかけて村内5か所に地区の特徴ある公園とパーゴルフ場を設置しましたが、親子のふれあいや、軽スポーツができ、身近な憩いの場としての公園設置の要望は各地区から出されています。

健康で明るい村づくりを推進し、子供から老人まで一緒になって心豊かなゆとりのある生活を送

るための拠点として、継続的に設置する必要がありますが、維持管理面において課題があります。

[施策の展開]

- 1 村の中心部へ、庁舎建設、明神橋の架け替えに併せて公園の設置を検討します。

- 2 地区公園の設置と、既存の公園等の整備拡充を図ります。

[村民の協力と役割]

- 1 公共の施設であることを認識し、大切に使いましょう。

- 2 自分たちの公園であるという理解のもとに自分たちで管理ていきましょう。

7 住宅対策

[現状と課題]

本村は、飯田市のベットタウンとしての位置にあり、下水道整備も着々と進んでおり自然に恵まれ住環境の適地です。しかし、適地については農業振興地域も多く、宅地転用の課題となっています。

人口構造からすると、人口流出対策や人口増対策の観点から住宅対策は必要不可欠のものであり、土地利用計画を基本に適正な宅地転用を推進する必要があります。

住宅団地造成の実績

年 度	箇所名	区画数	分譲総面積	事 業 主 体
S 63	林 原	8	3,241 m ²	豊 丘 村
H 4	林 里	12	4,668	豊丘村土地開発公社
"	中 芝	11	4,158	"
計		31	12,067	

[施策の展開]

- 1 土地利用計画に基づき宅地造成を図ります。

- 2 若者が定住する住宅環境の整備について研究します。

[村民の協力と役割]

- 1 計画的な土地利用計画に協力しましょう。

- 2 転入者との好ましい近隣関係をつくりましょう。

8 火葬場及び墓地対策

[現状と課題]

現在火葬場は主に飯田市斎苑を利用していますが、北部地域に新たな火葬場の新設の声があり検討した経過があります。北部地域は地理的条件からしても発展性があり、人口の増加が見込まれます。住民の利便性を考慮するなかで今後も広域事業として火葬場の研究を深める必要があります。

現在村内に3箇所ある村営墓地は全て貸付済であり、新たな希望者に対応できない状態にあります。個人墓地の新設について環境衛生上から抑制していることや、住宅団地の造成等による人口対

策に併せて、住民要望を考慮し、墓地対策も研究していく必要があります。

[施策の展開]

- 1 火葬場の新設について広域事業として研究します。
- 2 墓地対策については住民要望を把握して研究を進めます。

[村民の協力と役割]

- 1 生活上必要不可欠の施設であることを理解しましょう。



伴野運動公園

第3節

住民生活の安全確保

1 交通安全対策

[現状と課題]

交通安全計画に基づき村、関係行政機関、関係民間団体等により、交通安全対策が強力に実施されてきましたが、近年、交通事故による死者や傷者数は増加傾向にあります。道路の整備や自動車保有台数および免許取得者数の増による「くるま社会」の進展並びに高齢化社会の到来など今後一層事故の増加が予想されます。

この様な状況から、交通事故の防止は村、交通安全協会、小中学校、保育園、民間団体さらには村民一人ひとりが全力を挙げて取り組まなければならない緊急かつ重要な課題になっています。

人命尊重の理念のもとに総合的、計画的に諸施策を推進していかなければなりません。

教育を推進します。

2 交通安全運動の推進

- 村民一人ひとりが交通安全思想の普及徹底を図り、正しい交通ルールと交通マナーの実践を習慣づけるため、交通安全運動、広報啓発活動を組織的、継続的に展開します。

3 交通安全施設の整備

- 歩道整備の充実、交差点改良、カーブ改良、ガードレール、道路照明の整備を推進します。
- 積雪、路面凍結による事故防止のため、消雪対策、除雪滑止め対策を推進します。

[村民の協力と役割]

- 1 交通ルールと交通マナーを守りましょう。
- 2 家庭内や地域で交通安全について話し合い、交通事故防止を推進しましょう。
- 3 交通安全講習会等に積極的に参加し学習を深めましょう。
- 4 道路交通の妨害となるような不法占用等の行為は行わないようにしましょう。
- 5 交通事故防止活動の重要性を認識し指導者の育成に努めましょう。

交通事故発生状況 (豊丘村内)

年	人・物件事故の別	神	稻	河	野	計
62年	人 事 故	15		3(1)		18(1)
	物 事 故	63		11		74
	計	78		14(1)		92(1)
63年	人 事 故	14		5		19
	物 事 故	51		23		74
	計	65		28		93
元年	人 事 故	10(2)		2		12(2)
	物 事 故	64		17		81
	計	74(2)		19		93(2)
2年	人 事 故	12		5		17
	物 事 故	64		16		80
	計	76		21		97
3年	人 事 故	14(1)		4		18(1)
	物 事 故	69		23		92
	計	83(1)		27		110(1)

() は、交通死亡事故件数内書

[施策の展開]

1 交通安全教育の推進

- 交通社会の一員としての責任を自覚し、交通安全意識と交通マナーの向上に努め、相手の立場を尊重する良き社会人を育成することを基本として、幼児から高齢者に至るまでの交通安全



二輪車運転講習会

2 防犯対策

[現状と課題]

- 1 住民の日常生活を脅かす様々な犯罪を未然に防止し、ここに住んでいて良かったといえる人情味豊かな明るい社会の実現は全ての住民の願いです。
- 2 しかしながら、現在の犯罪は、スピード化、巧妙化、悪質化しており、特に近年都市型犯罪現象が進むとともに、犯罪者の若年化傾向が目立っています。
- 3 社会経済情勢の変化にともない、犯罪はさらに多様化、広域化されることが憂慮されます。これらの近代犯罪を未然に防止するためには、村民一人ひとりが防犯に関心を持ち、自主防犯に徹していくことが必要です。

[施策の展開]

- 1 地域社会の連帯を深め、防犯体制の強化を図ります。
●防犯指導員の活動を推進します。
●関係機関との連携を密にして犯罪の未然防止に努めます。
- 2 広報、印刷物等により防犯意識の高揚を図ります。
- 3 青少年健全育成協議会との連携により青少年の非行防止に努めます。
- 4 防犯灯の整備拡充を推進します。

[村民の協力と役割]

- 1 防犯に关心を持ち、犯罪を起こさせない地域づくりを推進しましょう。
- 2 あいさつを交わし、明るい家庭づくりを推進しましょう。
- 3 悪質な訪問販売等には毅然とした態度で臨みましょう。
- 4 暴力暴走行為を追放しましょう。

3 消防組織の整備と強化

[現状と課題]

- 1 豊丘村消防団は、団員220名体制で運営されてきましたが、人口の高齢化、都会への流出による若者の減少や住民の価値観の変化等により団員の確保が難しい時代を迎えています。また、地域間の団員数の格差も生じております。
- 2 社会経済情勢の変化により、村内職場の団員が少なくなり、日中の緊急活動に支障が生ずることが懸念されます。
- 3 近年、老人世帯や無人化の家屋の増加が目立ち、有事の際には多大な被害が出る可能性があります。
- 4 “火災は人災”といわれ、火災を未然に防止するためには村民の防火意識の高揚を図ることが最も重要となります。
- 5 消防団員は、私生活への抑制を受けながらも団員としての使命を認識し、地域住民の生命と財産を守るために努力しています。このため、団員の待遇改善や福祉の向上を図り、消防団を活性化させなくてはなりません。
- 6 消防車両や消防ポンプは計画的に更新していますが、分団詰所が老朽化しており改築が望まれます。また、消防施設など消防水利の確保も必要となります。
- 7 広域消防組織においては、年々増加する交通事故等に対応し、救急救命士の養成が急務となっています。

[施策の展開]

- 1 消防団員の200名体制を図り、組織の整備と消防機関等の充実を推進します。
- 2 住民の防火意識の高揚を図るとともに、予防消防に努めます。
- 3 消防団員の待遇改善や福祉の向上を図り、消防団の活性化を推進します。
- 4 分団詰所を中心に施設の整備を推進します。

[村民の協力と役割]

- 1 消防団に対する理解を深め、団員の確保等に協力しましょう。
- 2 消防水利施設の管理を積極的に行いましょう。
- 3 自主防災の必要性を理解し、隣近所で助け合う体制をつくりましょう。
- 4 家庭内で防火について話し合い意識の高揚を推進しましょう。

4 地震防災対策

[現状と課題]

当村は、昭和54年8月に飯田市など18市町村とともに、「東海地震に係る地震防災対策強化

地域」に指定されました。地震の想定としては駿河湾ないし東海沖においてマグネチュード8前後の地震が発生し、村内の震度は6と予想され、極めて大規模な被害が生ずる恐れがあります。強化地域の指定から年数が経過し、住民の地震に対する意識もおろそかになりがちですが、いつ発生するかわからない地震に対し、十分な訓練と意識の高揚を図り、被害を最小限に食い止める努力をしなければなりません。

[施策の展開]

- 1 地震防災についての意識の高揚を図ります。
- 2 総合防災訓練を実施します。
- 3 自主防災組織の強化を図ります。
- 4 情報伝達と連絡体制の整備を図ります。

[村民の協力と役割]

- 1 いざという時の心構えについて家族で話し合い、災害に対する備えをしましょう。
- 2 自主防災の必要性を認識し、隣近所で助け合う体制をつくりましょう。



消防団の一斉放水

5 消費者行政

[現状と課題]

- 1 国の消費者保護基本法の制定にともない、本村でも昭和52年に消費者の会が発足し、消費生活の向上を目的に学習等の活動を始めました。
- 2 近年、消費生活が豊かになった反面、訪問販売など悪質商法による被害が後を絶たず、また、輸入食品、加工食品等の安全性に対する不安も大きくなっています。
- 3 豊かな自然に恵まれた本村でもゴミの増大や河川の汚染など環境破壊が大きな問題となっています。
- 4 限られた資源を有効に活用するため、省資源、省エネルギー運動も展開しなければなりません。

[施策の展開]

- 1 消費生活の向上を図るため、消費者への啓発及び苦情処理窓口の充実を図ります。
 - 2 消費者の会の育成を図ります。
 - 3 環境保護や省資源、省エネルギーの啓発運動を推進します。
- [村民の協力と役割]**
- 1 地域や家庭内で、省エネルギー運動を推進しましょう。
 - 2 身近な消費問題について話し合い、意識の高揚を図りましょう。
 - 3 多様な情報を的確に判断し正しい知識を得るための学習を深めましょう。



第4節

公共交通機関の確保と充実

1 公共交通機関の確保と充実

[現状と課題]

- 1 村内のバス路線は、乗客数の減少を理由に年々縮小され、山間地の保育園児、小学生を送迎するスクールバスと、飯田から村中心部の田村を結ぶ1路線が運行されているのみとなっており、高齢者をはじめとする交通弱者に対する対策が必要となっています。また、現在運行されているバス路線も乗客数の状況によっては運行回数の削減、運行の廃止などが憂慮されます。
- 2 J R 飯田線は、民営化されてから長距離輸送から地域の交通機関としての重要性を増し、多くの通勤者や通学者に利用されています。特に、村内から各高校に通学する生徒にとっては欠かすことのできない交通手段となっています。
- 3 高速道バスは、長野、名古屋、東京の各方面

へ運行されており、その利便性と所用時間から、多くの地域住民に利用されています。

- 4 リニア中央新幹線は、平成2年から東京大阪間の地形・地質調査が行われており、開通への大きな夢と期待がかけられています。

[施策の展開]

- 1 公共交通機関の利用を促進します。
- 2 利便性のある交通機関であるよう関係機関に働きかけます。
- 3 リニア中央新幹線の伊那谷通過を促進します。

[村民の協力と役割]

- 1 公共交通機関の重要性を理解し、利用を促進しましょう。

第5節

地域情報化の推進

1 地域情報化の推進

[現状と課題]

- 1 情報技術の発展による情報化の進展は、家庭生活から産業活動まで広範な範囲に及んでいます。また、行政から住民への情報の重要性も今後ますます高くなることが予想され、多様化する情報ニーズに対応した施策の展開が求められています。
- 2 有線放送施設の老朽化による改修にともない、CATV化が進められています。この施設の有効活用のため、全戸加入が望まれます。
- 3 村からの情報伝達方法は現在有線放送と、隣組を通じての文書配布による方法がとられていますが、年々増加する文書配布量についても改善の声が上がっています。

[施策の展開]

- 1 CATVを活用して正確な情報を早く伝達できるよう努めます。
- 2 配布文書の減量化に努めます。
- 3 検診結果など個人のプライバシー保護に努めます。

[村民の協力と役割]

- 1 有線放送への加入を進めましょう。
- 2 隣組内の文書配布も近隣との「ふれあい」と位置づけ理解を深めましょう。